

第7回検討委員会の意見とその対応方針

第7回検討委員会の意見とその対応方針

	意見	対応
中川委員 (平和推進協会)	- 基本方針（案）で、①は「スポーツやイベント等を通じ、平和を発信する空間」、②では「日々の生活の中で平和の尊さを感じられる空間」とあるが、違いがわからない。「各ゾーンにおける基本方針（案）の対応表」の○や◎も含め、整合性がないように感じる。平和に関する言葉使いについては、長崎市の平和に関する担当部局と調整してほしい。 - 言葉や表の整理を含め「この空間にこういったものを整備する」というイメージがわかるようにしてほしい。	基本方針及びゾーン別整備方針の文言を見直しました。（資料2）
	被爆遺構について、既に露出しているものは、歴史の説明などに利用してほしい。	（当日回答）新聞に載った場所は三菱陸上競技場の基礎ではないと判断しています。ただし、工事の際に基礎が出てくる可能性は否定できません。出てきた場合は、学芸員が確認し、被爆の状況を示すものと確認できれば利用について判断します。
古賀委員 (城山校区連合自治会)	Dゾーンにプールが建つことになると防犯面の対策が必要である。	（当日回答）整備段階で配慮します。 - Eゾーンの整備方針に反映しました。（資料2）
椎名委員 (長崎県土木部)	Dゾーンの中に市民総合プールと広場があり、広場とCゾーンでシナジーが見えていないため、ゾーンが分断している。Cゾーンが平和を感じる、思いを受け止める核であるとする、Dゾーンを新たにD'ゾーンとして市民総合プールとして整備し、Cゾーンを新たにC'ゾーンとして広場部分と既存のCゾーンをまとめて整備した方が、Cゾーンから周辺に平和が波及していく形になる。	基本方針、ゾーニング及びゾーン別整備方針を見直しました。（資料2）
	Dゾーンの外側に外周園路を設けるという考えを反映すると、市民総合プールの周りに園路を設けることになるが、距離が短くなるので、川辺の部分・広場の部分にも絡んでくる。ただし、歩行者動線の混雑が生じるため、平時と有事ということで走るときは走る、イベントなどがある時は少しショートカットするという、いろいろな案があるかと思うが、基本的には広場と外周園路が重なることは、ゾーンの切り分けになってしまうため、シナジーを考えると、平和伝承施設と平和を感じる広場は一つの動線がいい。	ゾーニング及び歩行者動線計画を見直しました。（資料2）
岩本委員 (斜面地・空き家活用団体つくる)	長崎都心まちづくり構想や長崎まちづくりのグランドデザイン（策定中）の記載が抜けている。	- 上位計画・関連計画に追記しました。 - 長崎まちづくりのグランドデザインについては、策定中であることと、長崎都心まちづくり構想を包含する計画のため、記載しておりません。
	- Dゾーンの整備方針に「緑陰にあふれ」と記載されているが、市民総合プールができると緑や自然がどれくらい残るのかわかりにくい。整理できるとよい。 - Cゾーンには平和を訴える要素が大きくあるとする、エントランス機能という大きな方針よりは平和をつなげる空間というものを表に出していった方がいい。	C,Dゾーンの整備方針を見直しました。（資料2）
	平和伝承施設や瓦礫の展示などの直接的な平和を学ぶ場所も大事だと思うが、平和公園（西地区）は「水で遊べる平和」「スポーツができる平和」であることを見せているという広い解釈での平和を伝えたいと思った。	基本方針及びゾーン別整備方針を見直しました。（資料2）

第7回検討委員会の意見とその対応方針

	意見	対応
股張委員 (長崎国際観光コンベンション協会)	全体のネットワーク、車両動線、歩行者動線の考え方では、回遊性やストーリー性、理解が深まるような計画を検討すべきである。	歩行者動線計画を見直しました。(資料2)
	- 玄関口としての機能強化では、来訪者が平和を感じ交流する、体感する新たな玄関口としての機能という意味合いが必要。 - 案内板・誘導板や多言語への対応を前提として実施してほしい。	- ゾーン別整備方針を見直しました。(資料2) - 整備段階で対応します。
高取委員 (九州大学芸術工学部環境設計学科)	Cゾーンが、市民の方に関わっていただくようなきっかけをつくりながら平和を学んで発信していく場所になればと思う。	ゾーニング及びゾーン別整備方針を見直しました。(資料2)
	- 浦上川の歴史を振り返りながら佇める場所や、稲佐山への眺望など、視点場となる所のポイントを有機的につなぎ合わせながらストーリーとして体験できるというような、長崎の今の平和を学んでいくような全体の動線計画ができるといい。 - 歩かれている方、走られる方、水辺を見ながら滞留される方などが上手く棲み分けられた動線のゾーニングになるといい。 - 駐車場からの動線が安全かつスムーズであることも大切。	- 歩行者動線計画を見直しました。(資料2) (当日回答) 駐車場からの動線について、ラグビー・サッカー場の下に地下駐車場があり、A・BゾーンからDゾーンに行く場合、前面の道路を通らないようペデストリアンデッキを使って、安全に移動できると考えます。
佐藤委員 (環境カウンセリング協会長崎)	原爆遺構や被爆瓦礫の取り扱いの方針や活かす考えがあるかを確認したい。	(当日回答) 何か出てきたら直ちに被爆遺構ということではなく、被爆の実相を伝えるものであるかが判断材料になるため、出てきた場合は丁寧に確認します。
	- 原爆の被害が大きかったということと同時に、長崎大水害の被害もたいへん大きかった場所でもあるため、この場所の歴史が分かるような取組があるとよい。 - 浦上川は水を求めて亡くなられた方が大勢いることや長崎大水害のこともあり、水で遊べる場所がこの場にできるということは平和の象徴ではないかと思う。	基本方針及びゾーン別整備方針を見直しました。(資料2)
川瀬委員 (長崎市心身障害者団体連合会)	特にIゾーン・Cゾーンのアクセスについて、障害者の方は段差が大きく影響するため、今後建設するにあたって、一緒に協力させていただければと思う。	整備段階でのご協力をお願いいたします。